

学校経営推進費 事業計画書

1. 事業計画の概要

| | |
|--------|--|
| 学校名 | 大阪府立芦間高等学校 |
| 取り組む課題 | 授業改善への支援（生徒の学力の充実） |
| 評価指標 | 1 授業アンケートと学校教育自己診断における授業理解度の向上 2 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上 |
| 計画名 | 生徒が活用する ICT で学力向上・授業改善 ～自分の色彩（いろ）で輝き、響きあう学びプロジェクト～ |

2. 事業計画の具体的内容

| | | | |
|------------------|--|-------------------------------|--|
| 学校経営計画の 中期的目標 | <p>1 新学習指導要領の理念を踏まえた、生徒の「確かな学力」の育成及び教員の授業力の向上</p> <p>(1) 「生徒の論理的思考力を伸ばす授業」「生徒が主体性を持って参加する授業」をめざした授業改善に取り組む。</p> <p>ア 「生徒の思考を促す授業」をキーワードに、互見授業や授業公開をより活性化して教員間で授業力を高め合い、また、授業アンケート結果を効果的に活用して、研究授業や研修等に組織的に取り組み、主体的、対話的で深い学びの実現をめざす。※生徒向け学校教育自己診断（設問2, 3平均）における「授業理解度」（H29年度 62.9%、H30年度 58.0%、R1年度 56.3%）を令和4年度には75%以上にする。</p> <p>イ ICT の活用に取り組み、生徒の知識の定着を図るとともに生徒が課題意識を持ち自ら解決する姿勢を育てる。</p> <p>※ ICT を利用して授業を行う教員の割合令和4年度 50%以上をめざす。（R1年度 46%）</p> | | |
| 事業目標 | <p>本校は総合学科として多彩な選択科目を有すること、オープンネットに接続できるタブレット等を一定台数整備していることやコンピューター教室を3室持っていることなどの強みがある。教員がICTを活用した授業力の向上をはかることで、生徒が主体的にICTを活用し、協働し、高めあう等、生徒自らが選択した授業での学びを高めることをめざす。</p> | | |
| 取組みの概要 | 整備する 設備・物品 | プロジェクタとマグネットスクリーンを普通教室18教室に設置 | |
| | 取組内容 | 前年度 | <p>移動式テレビモニターやプロジェクタを授業ごとに移動して設置し、教材提示等で使用している。教科単位では利用されているが、圧倒的な台数不足と準備や片付けに時間がかかるなどの使いにくさが全体のICT活用を阻害している。数学では教員による教材提示にとどまらずに、教育SNS「edmodo」や「Quizizz」といったオンライン学習ツールをタブレット端末等で用いて、生徒が主体的にICTを活用する学びが、年間を通じて実施された。</p> |
| | | 初年度 | <p>教育SNS「edmodo」を全校で導入したことを生かし、校内アクティブラーニング推進委員会を中心に edmodo を基盤にさまざまなオンライン学習ツールを組み合わせ、生徒がICTを活用する教員と生徒、生徒と生徒の双方向型の授業実践を教科で開発する。実現には、教室内の大型提示装置は必要不可欠となるので、先行事例となる数学科の実践発表と校内研修を合わせて行い、ICTを授業で利用する教員の割合を50%以上にする。</p> |
| | | 2年め | <p>校内アクティブラーニング推進委員会を中心に、校内公開授業を促進し、生徒がICTを活用することで実現できる教員と生徒、生徒と生徒による双方向型の授業実践を全教科で一般化させる。一般化させた実践をICT活用の3側面である「Assistive（主体性）・Active（対</p> |

| | | |
|------------------|--------------------|---|
| | | 話的)・Adaptive(個別化)」に分類し、芦間高校のICT活用モデル集としてまとめ、府下に幅広く公開する。 |
| | 3年め | 校内アクティブラーニング推進委員会を中心に、生徒がICTを活用することで実現できる教員と生徒、生徒と生徒による双方向型授業実践の芦間高校のICT活用モデルを深化させる。一般化させた実践をICT活用の3側面である「Assistive(主体性)・Active(対話的)・Adaptive(個別化)」を年間を通じて統合したカリキュラムを教科で開発し、公開授業研究会を行い府下に幅広く公開する。ICTを利用して授業を行う教員の割合を70%以上にする。 |
| | 取組みの 主担・実施 者 | アクティブラーニング推進委員会 (各教科から1人。委員長は教頭。主体的・対話的で深い学びを研究・推進する委員会) |
| 成果の検証方法 と評価指標 | 初年度 | 1 生徒向け学校教育自己診断(設問2,3平均)における「授業理解度」を60%以上 2 2年次外部機関の客観的学力診断テストにおける国数英学力レベルゾーン B3からの向上 ※ ICTを利用して授業を行う教員の割合50%以上 |
| | 2年め | 1 生徒向け学校教育自己診断(設問2,3平均)における「授業理解度」を70%以上 2 2年次の外部機関の客観的学力診断テストにおける国数英学力レベルゾーン B3からの向上 ※ ICTを利用して授業を行う教員の割合60%以上 ※ 芦間高校ICT活用モデル集の発行 |
| | 3年め | 1 生徒向け学校教育自己診断(設問2,3平均)における「授業理解度」を80%以上 2 2年次の外部機関の客観的学力診断テストにおける国数英学力レベルゾーン B3から B2への向上 ※ ICTを利用して授業を行う教員の割合60%以上 ※ 公開授業研究会を実施 |